

2026. 5. 21

【日本貿易統計（26年4月）】

輸出は8ヵ月連続プラス

～先行きについては、緩やかな回復にとどまると予想～



経済調査部 主席研究員
藤田 敬史

ポイント

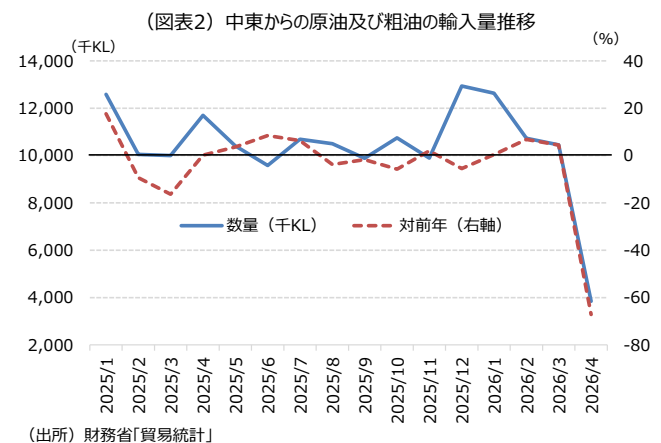
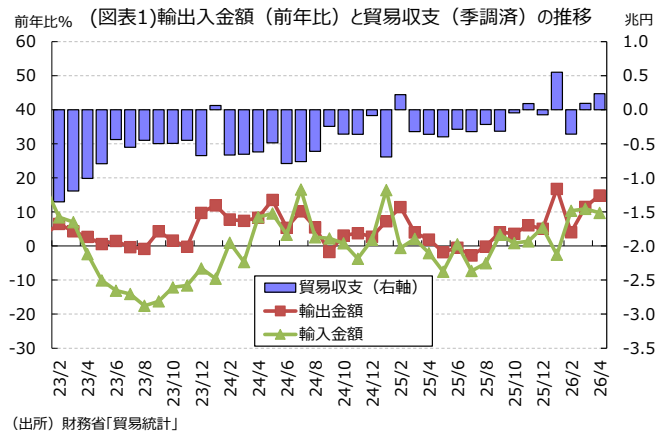
- 財務省の4月貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.8%と8ヵ月連続のプラス。季調済前月比は+1.4%と2ヵ月連続のプラスとなった
- 地域別輸出ではEU、アジア向けが9ヵ月連続のプラス、米国向けは2ヵ月連続のプラス。商品別では引き続きアジア向けを中心に堅調な半導体等電子部品を含む電気機器がプラスに寄与
- 先行きについては、半導体等電子部品が輸出の下支えとなることが期待される一方、ホルムズ海峡封鎖に伴う物流停滞が生産の足枷となる可能性などに鑑みると、輸出は緩やかな回復にとどまると予想

1. 季調済輸出金額前月比は2ヵ月連続のプラス

財務省から発表された4月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.8%（3月：同+11.5%）と8ヵ月連続のプラスとなった（図表1）。輸入金額は同+9.7%（同+10.9%）で3ヵ月連続のプラスであった。

季調済輸出金額は前月比+1.4%と2ヵ月連続のプラス、季調済輸入金額は同▲0.0%と2ヵ月連続のマイナスで、季調済貿易収支は+2,365億円と2ヵ月連続の黒字である。

中東情勢の緊迫が続くなか、原油及び粗油の輸入金額は前年比▲49.9%（数量：同▲63.7%）となった。うち中東からの輸入金額は同▲55.5%（数量：同▲67.2%）で、ホルムズ海峡の事実上封鎖の影響が大きく表れた形となった（図表2）。また、中東からのナフサなどを含む揮発油の輸入金額も同▲72.8%（数量：同▲79.4%）であったほか、液化天然ガス（輸入金額：同▲71.5%、数量：同▲76.1%）も大きくマイナスとなった。日本は原油輸入の94%¹を中東に頼るが、政府は他の地域からの代替調達を進めている。4月26日には米国テキサス州で原



¹ 財務省貿易統計による2025年輸入実績

油を積んだタンカーが日本に到着しており、米国からの原油及び粗油の輸入金額は同+118.2%（数量：同+38.8%）、また、揮発油（輸入金額は前年の107倍、数量は同206倍）も大きく増加した。

2. EU、アジア向け輸出は前年比9ヵ月連続のプラス、米国向けも2ヵ月連続のプラス

金額ベースの国（地域）別輸出は、EU向けが前年比+26.9%、アジア向けが同+16.1%とそれぞれ9ヵ月連続のプラスとなった（図表3）。米国向けは同+9.5%と2ヵ月連続のプラスであった。中東向けは同▲55.5%と、自動車を含む輸送用機器（同▲88.4%、寄与度：▲52.7㊦）などが落ち込んだことなどから2ヵ月連続の大幅なマイナス（3月：同▲46.0%）となった。

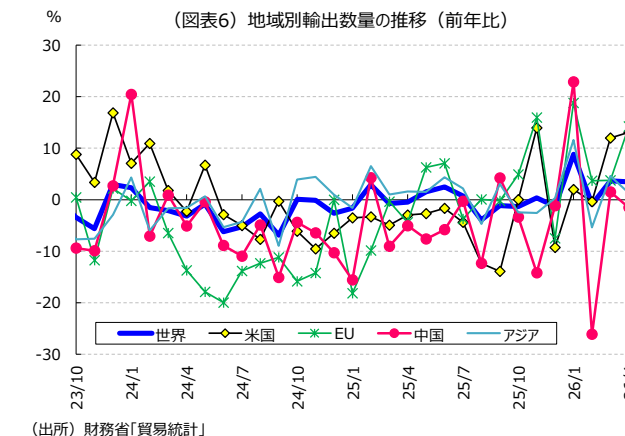
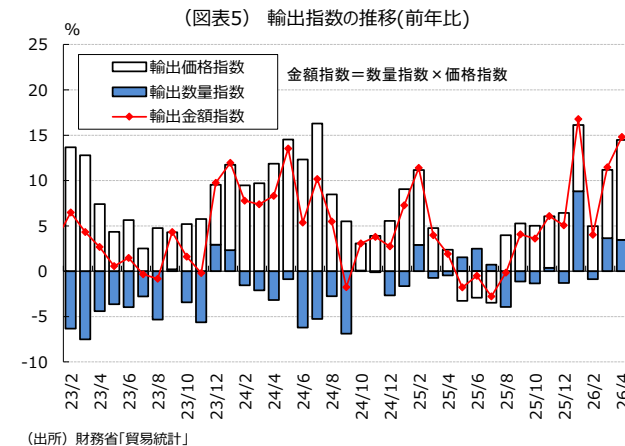
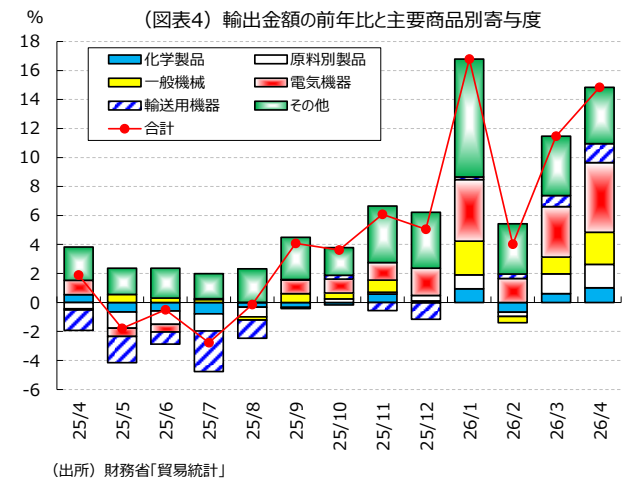
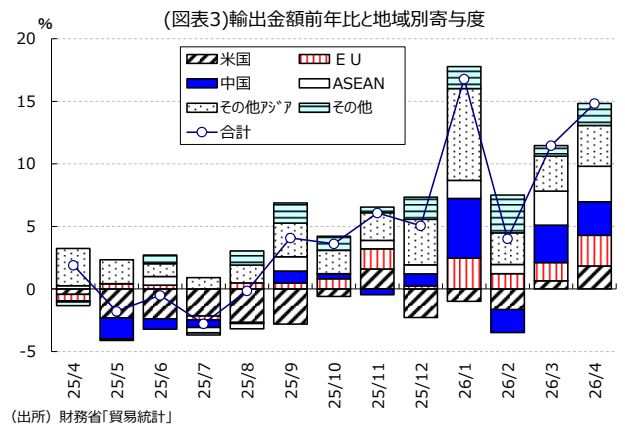
金額ベースの商品別輸出では、半導体等電子部品を含む電気機器（前年比+28.6%・寄与度：+4.8㊦）が10ヵ月連続のプラスとなった（図表4）。そのほか、原動機や半導体等製造装置を含む一般機械（同+12.5%・同：+2.2㊦）、非鉄金属を含む原料別製品（同+15.3%・同：+1.6㊦）、自動車を含む輸送用機器（同+6.0%・同：+1.3㊦）がプラスに寄与した。

半導体等電子部品は引き続きアジア向け（前年比+44.5%）を中心にプラス推移が継続している。また、自動車はEU向け（同+48.2%）がプラスで推移している。

3. 実勢を示す輸出数量指数は2ヵ月連続のプラス

輸出金額を価格指数と数量指数に分解すると、4月は価格指数が前年比+11.0%（3月：同+7.5%）、数量指数は同+3.4%（同+3.6%）であった（図表5）。価格指数は9ヵ月連続のプラスで、2026年4月の為替レート（税関長公示レートの平均値）は159.27円/ドルと、2025年4月の147.70円/ドルに対し7.8%の円安であった。円安により円換算金額が押し上げられる構図が続いている。一方、実勢を示す数量指数は2ヵ月連続のプラスで、過去6ヵ月中、4ヵ月でプラスとなっている。

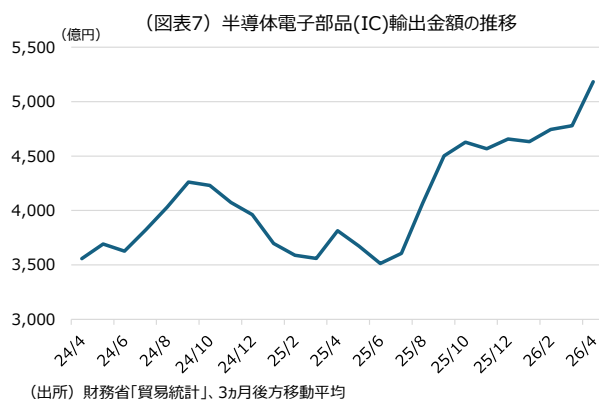
輸出数量指数を相手国・地域別にみると、米国向けが前年比+13.1%（3月：同+12.0%）、EU向けが同+14.2%（同+3.8%）、アジア向けは同+1.3%（同+4.6%）、うち中国向けは同▲1.5%（同+1.5%）であった（図表6）。EU向けは4ヵ月連続のプラス、米国、アジア向けは2ヵ月連続



のプラスとなった。

4. 輸出は緩やかな回復にとどまると予想

先行きについては、アジア向けを中心とした半導体等電子部品は堅調に推移しており、輸出の下支えとなることが期待される(図表7)。他方、ホルムズ海峡封鎖に伴う物流停滞が生産の足枷となるほか、対米輸出の関税負担は継続することなどに鑑みると、輸出は緩やかな回復にとどまると予想する。



本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください

明治安田総合研究所 主席研究員 藤田 敬史

電話番号：080 2298 8272

e-mail：takafumi.fujita@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411